

2022 年度
事業報告書

自 2022 年 4 月 1 日
至 2023 年 3 月 31 日



I. 個別の事業活動に関すること

1. つくばエキスポセンターの運営に関する事業【公益1・収益1】

2022年3月に策定した「公益財団法人つくば科学万博記念財団中長期計画」に基づき、つくばエキスポセンター（以下、「センター」という。）の事業を実施した。

2022年度のセンターの入館者数は173,670人（2021年度：121,527人、2020年度：70,606人、2019年度：176,296人）であった。

新型コロナウイルス感染拡大も収まる兆しがみえ、コロナ前（2018年度：194,150人）と比較すると約9割まで戻り、入館者数は回復しつつある。

政府からの基本的対処方針変更を受け、プラネタリウムの定員や来館者へのマスク着用など館内の感染拡大防止対策の制限を緩和した。一方、施設の抗ウイルスコーティングを前年度に続き11月に実施するとともに、職員のマスク着用や消毒などの基本的対応は継続した。これらの資金については文化庁からの文化芸術振興費補助金を2021年度同様に活用した。

(1) 展示【公益1】

感染状況を見て、毎日の消毒作業を実施しながら、展示物を運用した。

つくば市などとの定例的な打合せによる情報収集や地域動向を見定めつつ、展示の全体の構想案の見直しや催事企画を進めてきた。

① 1階展示場および屋外展示場【公益1】

1階展示場では、新展示物の充実を図り、2023年1月に電子情報技術産業協会（JEITA）の協力を得て、プログラミングが学べる「ロボットをうごかそう！」を製作した。3月には「光のあそび場」、「エキスポ・ブラックホール」、「不思議な玉つき」を製作し運用を開始した。また、老朽化した「大型シャボン玉装置」に代わり、「シャボン玉のかべ」の製作に取り組んだ。

屋外展示場では、H-IIロケット実物大模型の再塗装検討の為、塗面及び基礎部分の調査を実施した。調査の結果、塗装の状況が構造に影響していることはなく、当面再塗装の必要はなかった。一方、基礎部分については雨水の浸み込みによるコンクリートの劣化が懸念される為、2023年度に保守整備を実施することとなった。

② 2階展示場【公益1】

「未来ビジョン」のプロジェクトのリニューアルを行った。核融合実験炉ITERの最新情報を伝えるパネルを追加した。

創造の森“ワンダーラボ”にて第63回科学技術映像祭の入選作品の上映を通年で行った。

(2) 催事【公益1】

催事事業は、引き続き感染拡大防止対策を徹底し、内容や定員等を制限した上で実施した。

① 一般催事【公益 1】

「科学教室」16 テーマ 117 回、「サイエンスショー」11 テーマ 153 回を実施した。また、新規イベント「ドローンでプログラミング体験」を10回実施した。「小惑星リュウグウのサンプルレプリカ展示」を6月に約一か月間開催した。「乾電池教室」を7月と11月に2回（電池工業会）、ミーツ・ザ・サイエンス「南極の今！～つくばにもどった隊員たち語る～」(国立極地研究所)を7月と3月に2回開催した。

② 特別催事【公益 1】

春の企画展「錯視の世界～あなたは今度もかならずだまされる！～」を3月から5月まで開催、錯視を利用した絵や造形物を展示した。

夏の企画展では、楽器とデジタルアートを組み合わせた展示を体験できる「音と遊ぼう♪おとのゆうえんち」を7月から8月まで開催した。

秋冬の企画展では、光をテーマとした体験展示物を設置した「もっと知りたい！光の世界」を11月から2023年1月まで開催した。

2023年春の企画展では、小学館の大人気図鑑シリーズである「くらべてびっくり！「くらべる図鑑」」を2023年3月から6月まで開催中である。

(3) プラネタリウム及び3Dシアター【公益 1】

① プラネタリウム【公益 1】

プラネタリウムは、コロナに関する政府の対処方針変更を受け、6月より収容定員を通常の210名に戻して運用した。星空解説番組、こども番組、過去に好評であったオリジナル番組のリバイバル上映のほか、「ハナビリウム～花火って、なんであるの？～」など話題性のある作品を特別番組として上映した。こども番組などの選定においては、21年度に引き続き Connected Dome Library (コニカミノルタプラネタリウム社) を活用し、厳選した多様な番組を上映した。

センターが過去に制作したオリジナル番組の「流れ星のひみつ」等が他のプラネタリウム施設(5館)で上映され、ライセンス料の収入を得た。

天体観望会は、コロナに関する政府の対処方針変更を受け、定員を25名から50名に増やして実施した(計7回)。また、開館時間中に昼間の天体観望会(5月)やミニ天体観望会(11～12月の平日夕方)を実施した。

プラネタリウムホールの安全対策の為、足元誘導灯及び非常灯のLED照明への交換工事を実施した。

② 3Dシアター【公益 1】

感染拡大防止対策として、消毒・清掃の徹底は引き続き実施し、上映回数はそのままで、定員を4組16人から6組24人に増やして運用した。

(4) ミュージアムショップ【収益1】

科学に関連した商品提供、コスモ星丸などのオリジナルグッズの製作、新規オープンした市内の大型書店でのオリジナルグッズの販売、センターの企画展やプラネタリウム番組に関連した商品の提供を行い、センターの広報と共に、売上向上に努めた。

(5) その他【公益1・収益1】

① 学会・協議会等活動への参加・協力【公益1】

日本博物館協会等の「教員のための博物館の日」に参画し、8月に開催した。【公益1】

② 「ほしまるカフェ」の営業【収益1】

民間事業者の協力を得て、土日祝日及び繁忙期に営業し、来館者へのサービス向上に努めた。

③ 駐車場及び財団の事業目的に沿った施設等の貸与・貸付【収益1】

駐車場は、団体バス及び個人の乗用車での来館者に対して、有料にて貸付を行った。

2. 科学技術の普及啓発及び人材育成の促進、科学技術に関する産業界、大学及び公的研究機関の連携促進並びに科学技術の国際交流の促進に関する事業【公益2・収益2】

(1) 科学技術の普及啓発及び人材育成の促進【公益2】

① 科学技術週間における筑波研究学園都市研究施設一般公開に対する支援をはじめとする施設料金割引や展示・催事等の実施【公益2】

科学技術週間におけるセンター入館料割引を行うとともに、科学技術映像祭の入選作品上映会等を実施した。

② 科学技術を通じた地域コミュニケーションの創造のための事業【公益2】

新たな取組みとして、地元のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）校等と連携し学校連携事業を企画し、8月に「地元校による EXPO サイエンス Day！」を実施した。

③ 全国ジュニア発明展【公益2】

全国ジュニア発明展の事業目的を継承し、全国的な展開の方向性を改め、第66回茨城県児童生徒科学研究作品展及び茨城県発明工夫展県南地区展に協力し、地元茨城県の小中学生の科学研究・発明工夫活動を支援した。

④ 科学技術の普及啓発及び人材育成を促進する事業の共催支援・協力【公益 2】

下記の事業に主催、共催、後援、協力を行った。

- ・ 第 64 回科学技術映像祭（主催）
- ・ 第 15 回日本地学オリンピック（共催）
- ・ 第 18 回全国物理コンテスト「物理チャレンジ 2022」（共催）
- ・ 第 12 回科学の甲子園茨城県大会（共催） 他 7 件

⑤ おとなのためのサイエンス講座【公益 2】

地元の研究機関、企業の協力を得て、新規講座を含め、当初予定 10 講座のうち 7 講座を開講し、受講生は 57 名であった。

⑥ アウトリーチ活動【公益 2】

84 回実施し、参加人数 4,546 人であった。なお、コロナのため、休止していた移動プラネタリウムを 10 月より再開した。

つくば市に協力し、駅前の商業施設で「親子で科学実験工作」を実施した。加えて、外部資金を活用し、学校に通うことができない子ども向けの科学体験活動や学校向けに科学出前教室を実施した。

⑦ エキスポ科学クラブ【公益 2】

小学校 3・4 年生クラスに加え、5 年生クラスを試行し、合計クラブ員数 89 名で、43 教室を開催した。

⑧ 科学館連携事業【公益 2】

全国の科学館とのネットワークを活用し、各種研修に参加した。また、展示更新や事業充実の為、全国の科学館を視察した。

⑨ 博物館実習

学芸員育成のための教育支援・職場体験、企業実習の受け入れ【公益 2】
学芸員実習生 4 名を受け入れた。

⑩ その他【公益 2】

つくばインターナショナルスクール（TIS）と連携・協力して、11 年生 6 名の生徒がセンターの英語版プラネタリウムガイド（冬春）・上映前スライドの作成、紹介動画・展示物の一部英語表記を作成した他、SNS でイベント等を配信した。

(2) 科学技術に関する産業界、大学及び公的研究機関の連携促進並びに科学技術の国際交流の促進【公益 2・収益 2】

① 助成支援【公益 2】

「ミツバチサミット 2023」への助成を決定した。

② つくばサイエンスニュースによる情報発信【公益 2】

記事・コラムの掲載は 218 本であり、アクセス数は 272,637 件となった。

③ 研究者等語学研修【収益 2】

第 45 回英語研修（通年クラス）の受講者数は 128 名（10 クラス）となり、感染拡大防止対策として、主にオンライン授業を実施し、一部を対面授業・ハイブリッド授業（対面/オンライン同時）で行った。秋クラスについては 34 名（3 クラス）、冬クラスは 61 名（5 クラス）の受講者数であった。

3. 科学技術関係団体等に関する事業【他 1】

「科学技術団体連合」及び「牧友会」の事務局業務については、2018 年 4 月から引き続き休止している。

4. 情報発信・広報活動

（1）情報発信（情報公開）

「2021 年度事業報告書及び計算書類等」及び「2022 年度事業計画書及び収支予算書等」を財団ホームページで公開した。

2022 年 4 月～2023 年 3 月末のページビューアクセス数：

① つくばサイエンスニュース	272,637 件
② つくば科学万博記念財団ホームページ	65,945 件
③ つくばエキスポセンターホームページ	3,006,801 件

（2）広報活動

筑波研究学園都市記者会等へのプレスリリースを 7 件行った。新聞掲載は 9 件、他 140 件の撮影・取材や画像提供等に対応した。

NHK ニュース生放送や BS の旅番組への出演によるセンターの紹介ほか、ホームページや SNS(Instagram、Facebook)を利用したセンター活動の広報を行った。また、屋内デジタルサイネージを導入し、館内マップやイベント情報を掲載し館内来館者へのサービス向上に努めた。

スマートフォン対応の強化を念頭に見やすい、使いやすいを目指したセンターホームページのリニューアルを行った。

メールマガジンの購読者拡大やホームページバナー広告募集など、2023 年度初めの運用開始に向けて準備を進めた。

（3）情報セキュリティの強化

サイバー攻撃に対する財団ホームページ及びセンターホームページのウェ

ブサーバー、メールサーバーのセキュリティサービスを引き続き導入している。

5. その他

地域における役割の認識や期待に応える為、つくば市などとの定例的な意見交換を継続した。

II.財団運営に関する総合的な活動に関すること

1. 代表理事・業務執行理事及び理事会・評議員会

代表理事及び業務執行理事の執行体制で財団経営を担い、業務を適切に執行した。理事会・評議員会については、定款等で定められている通り運営した。
(理事会 4 回、評議員会 2 回)

2. 監事監査

理事の業務執行及び事業報告、計算書類等の監事監査を行った。
また、これに資する為、外部監査として公認会計士による監査を実施した。
○5月19日～21日 公認会計士による監査
○5月31日、6月1日 監事監査

3. 基金の運用

予算を上回る運用収益を計上した。また、前年度償還(額面 5 億円)分及び満期償還(額面 2 億円)分について再投資を実施した。

4. 外部資金

文化庁による文化芸術振興費補助金を獲得し、館内の新型コロナウイルス感染症感染拡大予防等の事業を実施した。また、2つの外部機関助成金を獲得し、アウトリーチ活動を実施した。

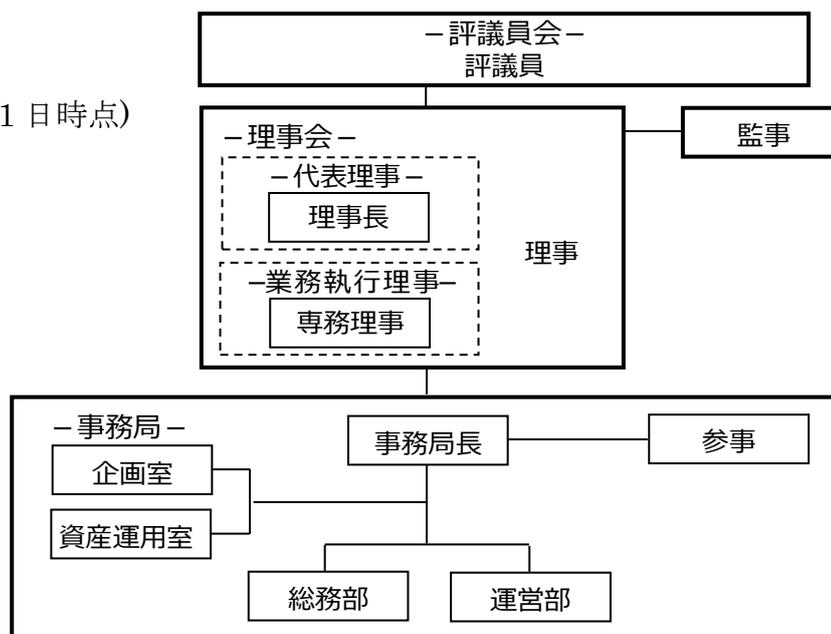
5. 施設・設備【公益1】

計画的な施設・設備等の整備に加え、2階多目的ホール前トイレ改修・券売機前通路設置工事、フェンス及び門扉改修工事、老朽化対応等を行った。

6. 業務執行体制

公益財団法人の代表理事として理事長、業務執行理事として専務理事を、事務局に総務部、運営部、企画室、資産運用室を置き、効率的かつ効果的な事業運営を行った。

組織図
(2023年3月31日時点)



7. その他

法定点検が義務付けられている消防用設備等点検及び防火対象物点検（9月、3月）を実施し、適切に届出を行った。加えて、消防計画に基づき、消防訓練（7月、3月）を2回行った。

他に、建築基準法に基づく防火設備定期点検（4月）を行った。

事業報告書の附属明細書について

2022年度事業報告については事業報告書に記載のとおりであり、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので作成しない。